

第 10 戦で小林可夢偉が意地のオーバーテイクを見せ、久々にポイント獲得！
来シーズンに向けて大きな期待と課題を持って、2022 シーズンは幕を閉じた。

2022 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 9 戦/第 10 戦 レポート

開催日程	2022 年 10 月 29 日(土) / 30 日(日)	開催場所	鈴鹿サーキット(5.807km)
大会名称	2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 9 戦/第 10 戦 第 21 回 JAF 鈴鹿グランプリ(各 31 周又は 75 分 / 参加台数: 21 台)		
天候 / 気温	10 月 29 日(土) 晴れ / 17 度→19 度 30 日(日) 晴れ / 17 度→21 度		
観客動員数	10 月 29 日(土): 6,800 人 30 日(日): 10,000 人 計 16,800 人(主催者発表)		

前戦茂木から約 2 ヶ月のインターバルを経て、最終大会となる第 9 戦、第 10 戦が鈴鹿サーキットにて開催された。今大会も土曜日、日曜日ともに予選・決勝が行われる 2 レース制で、専有走行は金曜日に実施。90 分間の走行でマシンチェックとセッティングを詰めていき、小林は 9 番手(1' 38.287)、国本は 12 番手(1' 38.303)と、まずまずな結果となった。走行後、まずは翌日の予選で上位グリッドを獲得するため入念にミーティングを行い、マシンにセットアップを施した。泣いても笑っても最終戦。チームは一丸となり、今シーズン最後の戦いに臨んだ。



【第9戦 予選】

天気：晴れ / 気温：17度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 Q1B組：10位 / 1' 37.578

#18 国本雄資 Q1A組：6位 / 1' 37.506 Q2：12位 / 1' 37.163

雲一つない、爽やかな晴れ間が広がる29日(土)。気温17度、路面温度24度、日陰では肌寒さを感じるが過ごしやすい気候の中、9時15分から予選が始まった。Q1A組に出走する国本は今回、前回の鈴鹿より上のリザルトを目指して、異なるセットアップで挑んだ。10台の車両の中で最後にタイムアタックに入った国本は1' 37.163をマークし、6番手でQ2へと駒を進めた。

5分間のインターバルを経て、Q1B組が始まったのは9時30分。KCMGからは小林が出走したが、思うようにタイムは伸びず、10番手(1' 37.578)に留まり、Q1でノックアウトとなった。

10分間のインターバルを経て、9時50分からQ2がスタート。Q1から約コンマ3秒タイムを縮めたが、36秒台にはわずかに届かず、1' 37.163で12番手となった。

第9戦決勝スターティンググリッドは小林が20番グリッド、国本が12番グリッドとなった。

【第9戦 決勝】

天気：晴れ / 気温：19度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 18位 / #18 国本雄資 20位

終日秋晴れに恵まれた鈴鹿サーキットで第9戦決勝の時を迎えた。14時30分、気温19度、路面温度30度のコンディションの下、レーススタート。小林はオープニングラップの位置取りの関係で最後尾に後退。その後も前車に引っ掛かり、自分のペースで走れない苦しい走行が続いた。ペースを上げられない小林は14周終了のタイミングでピットイン。タイヤ交換を済ませ、コースに戻った後は上位グループと同等の41秒台で周回を重ねていき、16周目には#14大嶋選手、20周目には#36アレジ選手をパスし、18位でチェッカーを受けた。

一方、スタートで出遅れた国本は#39阪口選手と#6大津選手にかわされ、14番手でオープニングラップを終えた。ストレートスピードが伸び悩み、なかなかペースが上がらない国本は19番手までポジションを落としてしまう。10周終了のタイミングでタイヤ交換を済ませたが、その後のペースも今一つ伸びず、20位でのチェッカーとなった。

小林、国本ともに大きな課題を残す結果となった第9戦。次こそポイント獲得できるよう、チームは一丸となって今シーズン最後の戦いに臨む。

【第10戦 予選】

天気：晴れ / 気温：17度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 Q1B組: 8位 / 1' 37.216

#18 国本雄資 Q1A組: 5位 / 1' 37.333 Q2: 12位 / 1' 37.255

週末を通して青空が広がり、レース観戦日和となった鈴鹿サーキットでいよいよ最終戦を迎えた。9時5分、気温17度、路面温度20度のコンディションで予選Q1A組がスタート。前日同様、A組に出走したのは国本。前日の予選からセッティングを変更し、マシンに僅かな手応えを感じた国本は前日のQ1よりタイムを縮め、5番手(1' 37.333)タイムをマーク。2戦連続、Q2進出を決めた。

9時20分、予選Q1B組がスタート。前日から大きくセッティングを変更して臨んだ小林のアタックタイムは1' 37.216。前日のQ1よりコンマ3秒以上速く、A組でアタックした国本よりも速いタイムだが、強豪ぞろいのB組のカットラインはA組よりコンマ5秒以上速く、残念ながら小林は8番手でQ1敗退となった。

9時40分、いよいよ最終戦のポールポジションを決めるQ2がスタート。国本はQ1より僅かにタイムを縮め1' 37.255をマークするが上位に食い込むことはできず、前日同様12番手に留まった。

第10戦決勝スターティンググリッドは小林が15番グリッド、国本が12番グリッドとなった。

【第10戦 決勝】

天気：晴れ / 気温：21度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 10位 / #18 国本雄資 18位

晩秋ながら、日向では汗ばむような陽気となった第10戦決勝。この第10戦の勝者には伝統ある「JAF GP」のタイトルが掛けられている。14時30分、気温21度、路面温度32度のコンディションの中、レーススタート。好スタートを決めた小林は#53 佐藤選手、国本、アレジ選手をかわすと12番手に浮上。国本は2つポジションを落とした。スタート直後の1コーナーでアクシデントが発生したため、1周目からセーフティカーが導入された。3周目、リスタートが切られると小林はポジションをキープし、10周終了のタイミングでピットイン。素早くタイヤ交換を済ませてコースへと向かった。国本は翌周にピットに入ったが、タイヤ交換に少し時間がかかってしまい、最後尾までドロップしてしまう。13周目、シケインでクラッシュ車両が発生したため、再びセーフティカーが導入される。車両回収が終わり、リスタートが切られたのは18周目。19周目、2つポジションを落とした小林だが、22周目には1つポジションを戻すことに成功。レース終盤に入ると1ポイントをかけた10番手争いが激化する。26周目、12番手を走行する小林はストレートで10番手の#19 関口選手、11番手の#38 坪井選手と横並びになり、小林はイン側にマシンをねじ込む。そして、温存していたオーバーテイクシステムを稼働させて1コーナーで2台をまとめて攻略する離れ業を見せた。遂にポイント圏内まで浮上した小林。最後まで諦めず、前車の背後まで迫ったがオーバーテイクには至らず、10位でチェッカー。第3戦以来のポイント獲得となった。

一方、国本はタイヤ交換後もまったくグリップ感を得ることができず、マシンのポテンシャルを引き出すことができないまま18位でチェッカーを受けた。

2022シーズンは今一つ歯車が噛み合わず、苦しい1年となりましたが、応援して下さる皆様のおかげで無事閉幕いたしました。一年間、応援ありがとうございました。

★ 年間チームランキング ★

KCMG 10位 (19ポイント)

★ 年間ドライバーズランキング ★

#7 小林可夢偉 17位 (9ポイント) / #18 国本雄資 16位 (10ポイント)



【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉選手

2戦とも残念ながら非常に苦しい予選となりました。マシンのバランスが悪いとかそういうことではなく、純粹にニュータイヤのグリップを引き出すことができず、タイムを縮めることができませんでした。決勝も後方のポジションから厳しいスタートとなってしまう、全体的に苦しいレースでした。レースも単独で走っている時のペースは悪くなかったのですが、前に車があると自分のペースを維持できませんでした。予選の順位がすべてだったと思いますが、その中でも第10戦はオーバーテイクシステムをうまく使い、ポイント圏内まで順位を上げることができました。

#18 国本雄資選手

第9戦は第3戦鈴鹿大会の時とは違う車の仕様で挑みましたが、非常に厳しいレース展開となり、何が原因か掴めないまま20位になってしまいました。その後、時間がない中で色々セッティング変更を行いました。第10戦はさらに厳しい展開になりました。

【監督コメント】

松田次生監督

金曜日の専有走行はライバルとの差はあまりなかったが、第9戦は18号車のペースが悪く、最終的には順位を落としてしまいました。7号車も車のコンディションに合ってなくて、結局順位を上げることができず、苦しい状態でした。しかし、タイヤ交換をした後はとても良いペースで走っていたので、予選でもっと前にいけていれば、と思うと悔しいレースでした。

第10戦は、7号車はセットを大きく変えて予選に挑みましたが、うまくアジャストできませんでした。しかし、決勝は良いペースで走ってくれて、オーバーテイクもできました。最後にポイント獲得できたので、厳しい状況でしたが、良い戦いができたと思います。18号車は2戦連続でQ1突破してくれましたがレースセットがうまくいかず、順位を落とす結果になってしまいました。

1年を通して望んでいた結果は出せませんでした。このオフシーズンで何が悪かったのかを徹底的に洗い出し、車が変わる来年はしっかり前に行けるように頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いたします。